

無断外泊、家出をくりかえした男子生徒の事例

1. 主訴 家出

2. 対象 中学校3年 男子

3. 問題の概要

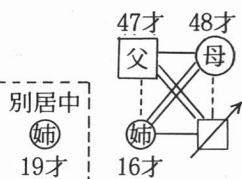
- 小学校3年の終わりごろから家出を始め、以後両親に叱られたりすると度々家を飛び出す。
- 中学校1年ごろから喫煙、シンナー吸引。
- 中学校2年のとき、深夜徘徊、オートバイ運転などで警察に補導された。
- 中学校3年になり、教室から抜け出す行為もみられるようになった。

4. 資料

(1) 初回面接 — 並行面接 —

① 本人

- 時々家出をする。小学校4年のころからもう10回以上もしている。姉ともよくけんかする。
- 学校から逃げ出すことがある。頭がボートとしてわけがわからなくなることがある。
- 本人のみた家族システム・力動



- 分離型の傾向、ただし、同性同志が結びついているのが特徴である。
- 父は会社員、母は主婦、長姉は大学生、

(長期間別居中)、次姉は高校生である。

— 本人の行動を解離反応と疑い、家出と教室抜け出しの状況を時間の経過に従って詳細にきく。かなり正確に自分の行動を説明できた。面接中絶えずつめをかむ。

② 両親

- 小学校4年の初め、あることで母が本人を叩いたことで家出。一晚野宿して帰宅。中学校1年から喫煙を始め、現在1日20本位吸っているようだ。時々シンナーもやっている。
- 小学校1年のとき、父母離婚、3年の末に、父、現在の母と再婚。その間、通いの家政婦が世話をしていた。
- 父、現在の母とも継母に育てられた。父「継母は厳しかった。かなりたたかれた。」、母「継母が来て、4人の弟妹が生まれ子守りばかりさせられた。つらいことばかりだった。」

(2) 第2回面接 — 並行面接 —

① 本人

- 最近の家出の動機、「父に、『勉強しろ』と言われ、頭にきていた。次の朝、起きなくなかったので寝ていたら、アレ(母親のこと)に無理に起こされた。おもしろくないので家出。」
- 家はおもしろくない。家を出るときは、カーツと頭に血がのぼっているが、意識がないというわけではない。

② 両親

- 前回の面接により、今までの養育態度を反省して細かく干渉しないようにしたら、本人の気持ちがあぐれてきた。
- タバコとシンナーをやめない。
— 解離性のヒステリーではない。微細脳機能障害候群(MBD)特有のぎこちない態度や話の抽象化のしかたに気づく。学校へ教育相談の関係に入ったことを連絡し、これから連携して指導援助にあたることを確かめ合った。

(3) 第3回面接 — 並行面接 —